

# 宮城大学×只見町塩沢・十島地区

---

宮城大学小地沢研究室

# 1. 塩沢・十島地区の印象と課題

## 印象

- ・ 高齢化、後継者不足に対して危惧している
- ・ 集落内の田畑の他、観光スポットの管理や整備も住民自治で頑張っている
- ・ 近隣地区から遠く、自家用車がないと外出範囲が限られる
- ・ 只見線開通のお祝いムードで盛り上がっている
- ・ 住民らは、短期間で移住者増加等の成果が出る取り組みを期待している

## 課題

暮らしの中の懸念

- ・ 高齢者の見守り体制が必要
- ・ コロナ禍で住民同士の交流の機会が減少している
- ・ 外出機会の減る冬季の活動の場がない

観光資源が活かしきれていないこと

- ・ コロナ禍で、ワラビ園の収益がなくなってしまった
- ・ 塩沢・十島へ来た観光客の休憩場所や観光場所が不足している

担い手不足の不安

- ・ 山菜栽培などのノウハウの継承者がいない
- ・ 住民は頑張っているが一つひとつの取り組みに終わっており、年間を通して組織をまたがった「地域づくり戦略」が必要



## 2. 今年度の活動内容

8月～9月 現地調査に向けた準備

9月15～16日 現地調査



会津塩沢駅



集落の田んぼ



塩沢観光ワラビ園



簡易郵便局奥の  
食品加工所



河井継之助の墓



## 2. 今年度の活動内容





## 2. 今年度の活動内容

10月 意見カードを使ったS W O T分析

11月 課題の絞りこみ

～1月 提案にむけて



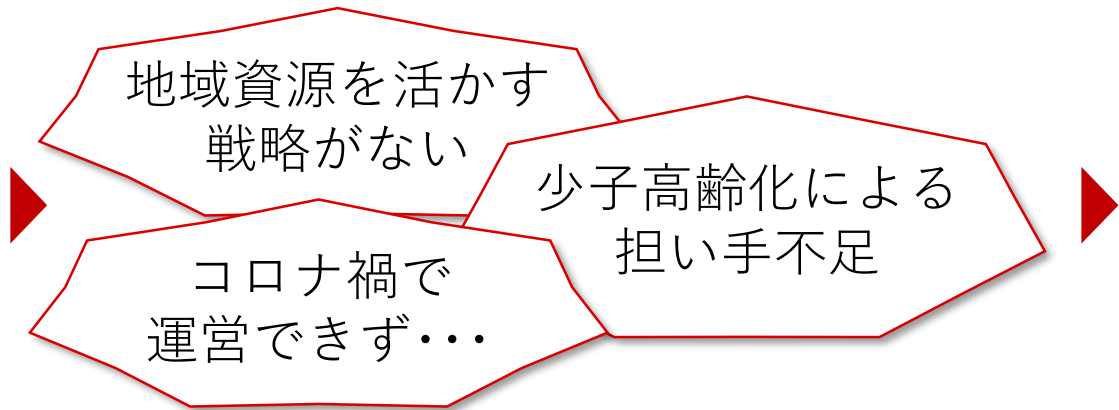
研究室のメンバーとともに  
取り組む課題の絞り込み作業中



意見カードを使った、  
集落の弱み・強みの整理

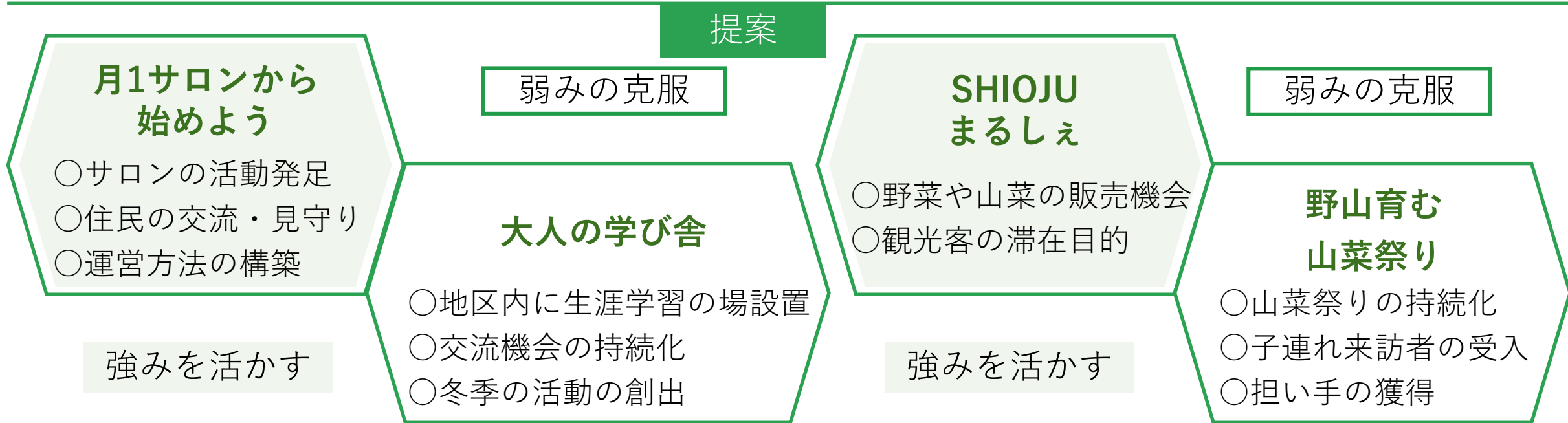
# 3. 課題解決のための提案、考察

多様な 地域資源	住民の 危機感
交流活動の 拠点	只見線 再開



## このままの場合 塩沢・十島地区の将来

- ・高齡化に伴う孤立化への懸念
- ・山菜・野菜づくりのノウハウが廃れる
- ・移住者・交流人口ともに増化が難しい



# 4. 今後に向けて

## 月1サロンから始めよう

サロンの活動発足と継続に向けた土台づくりの取り組みを通して、塩沢・十島地区における相互の見守りとコロナ禍で減少した住民の交流機会の創出を目指す。

主体	2年目の取組み	その後の展開
小地沢研究室 地元の既存協議会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地元の既存協議会の運営状況の確認</li><li>・ 企画の具体化</li><li>・ 住民に対する周知</li><li>・ 月1回のサロンの開催</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ サロンの開催の継続化</li><li>・ 集落のトピックスに関する情報発信、SNSの投稿記事づくり</li><li>・ 地元の既存協議会だけで運営・情報発信が出来る体制の構築</li></ul>

## SHIOJUまるしえ

会津塩沢駅前でのマルシェの開催を通して、塩沢地区で生産できる山菜や野菜の販売機会の創出と、塩沢・十島地区を訪れる観光客の滞在目的の創出を目指す。

主体	2年目の取組み	その後の展開
小地沢研究室 住民	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 出品するもの、出店者リストの作成</li><li>・ のぼりやPOPの作成</li><li>・ まるしえの開催</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ まるしえの定期開催</li><li>・ 山菜祭りとの連携</li><li>・ 情報発信</li></ul>